



ご存知ですか？「後発医薬品」

今月は、東海病院薬剤室から「後発医薬品」についてご紹介します。

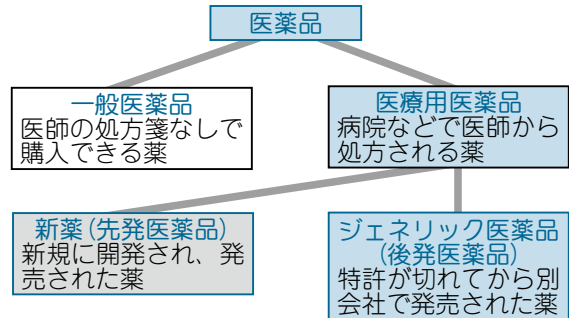
「後発医薬品」は別名「ジェネリック医薬品」ともいわれ、医療用医薬品(医師の処方箋により処方される薬)の価格が安くなり、医療費負担を減らすことができることから、近年注目されています。

■「後発医薬品」とは？

医療用医薬品は、大きく2つに分けられます。

1つは「先発医薬品(新薬)」といわれ、特許期間中(20～25年間)に独占して製造・販売することが認められた医薬品で、もう1つは、同じ有効成分の「後発医薬品(ジェネリック医薬品)」です。新薬の特許期間が切れると、他メーカーでも同じ成分の薬を製造できるようになります。

後発医薬品は、数百億円以上ともいわれる先発医薬品の開発費用に比べ、開発費用が少なく済むため、薬の値段が安くなるのが最大の特徴といわれています。



■先発医薬品と後発医薬品の違いは？

| | |
|-------|---|
| 同じところ | ●有効成分(同一成分、同一含量) ●治療効果(有効性・安全性、効能・効果、用法・用量、使用上の注意) (※一部異なる場合があります) |
| 違うところ | ●添加物(種類・量) ●性状(色や味、におい、形、大きさなど) ●剤形(錠剤・カプセルなど) |

後発医薬品には以下のような試験が行われ、先発医薬品と同等の効き目、品質、安全性があると確認されています。

- ①純度試験(有効成分の純度を確認する試験)
- ②溶出試験(水や胃内を想定した溶液で、有効成分が溶ける速度を確認する試験)
- ③安定性試験(有効成分が温度・湿度により品質が変化しないかを確認する試験)
- ④生物学的同等性試験(有効成分が血液中に取り込まれる量と速さを確認する試験)

添加物については、先発医薬品と後発医薬品では異なる場合がありますが、共に安全性が確認されたものが使用されています。まれに添加物でアレルギーを起こすことがありますので、注意が必要です。

■後発医薬品を処方してもらうためには？

まず、病院や診療所で受診した際に、後発医薬品を希望していることを伝えてください。また、院外処方箋で薬をもらっている場合には、薬局の薬剤師にご相談ください。

健診室からのお知らせ

人間ドックの追加検査(オプション)をご紹介します。

【骨密度測定(DEXA法)】(費用：3,150円)

骨粗しょう症は、骨がスカスカの状態となり、もろく折れやすくなる病気で、高齢者、閉経後の女性、痩せている方、運動不足の方、カルシウム不足の方に多いといわれます。また、年を取ってから骨折が起これば、障害は甚大です。当院の骨密度測定は精度が高く、測定部位は「腰椎」、「大腿骨頸部」の2か所で、測定時間は3分程度です。ご希望の方は、人間ドック申し込み時にお申し出ください。

●問い合わせ 村立東海病院健診室直通(☎282-2614)

問い合わせ ■村立東海病院(☎282-2188)、保健年金課地域医療担当(☎287-0899)